

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【四半期会計期間】	第21期第3四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	株式会社フォーサイド
【英訳名】	Forside Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 根津 孝規
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第3四半期連結 累計期間	第21期 第3四半期連結 累計期間	第20期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2020年1月1日 至2020年9月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
営業収益 (千円)	3,017,125	2,859,048	4,040,229
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	1,299	68,719	47,327
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	130,631	367,536	156,187
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	277,362	343,067	230,205
純資産額 (千円)	1,051,757	1,074,789	1,425,568
総資産額 (千円)	3,213,338	3,621,774	3,687,828
1株当たり四半期(当期)純損失 ( ) (円)	4.16	11.29	4.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.9	29.2	38.0

回次	第20期 第3四半期連結 会計期間	第21期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	0.61	0.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
3. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクは次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当社グループの販売計画の実行及び営業活動の減速を余儀なくされている状況であります。今後、新型コロナウイルス感染症の収束の時期が長引くほど、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローへの影響が拡大する可能性があります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、景気後退の長期化が見込まれ、極めて厳しい状況にあります。段階的に社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、Go To キャンペーン等の経済政策や日銀の金融緩和策の継続により、社会経済活動の回復が期待されていますが、感染再拡大、雇用・所得環境の悪化懸念等、先行き不透明な状況が続くものと思われまます。

当社グループの事業領域であるプライズゲーム市場におきましては、アミューズメント施設の来店者数は持ち直しの動きが見られるものの、コロナ禍での生活・行動様式の変化を受け、元の水準に戻るまでには一定の時間を要するものと思われまます。一方で、オンラインクレーンゲームのユーザー数は増加傾向にあり、更なる市場規模の拡大が期待されています。住宅市場におきましては、2020年9月の新設住宅着工戸数が前年同月比9.9%の減少となり、前年同月比で15ヶ月連続の減少となりました。また、貸家着工戸数においても、前年同月比で25ヶ月連続の減少となり、今後も低調に推移することが予想されます。

このような経済状況の中、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大幅な営業活動の自粛を余儀なくされました。緊急事態宣言後は、オンラインを活用した営業活動を強化する等、withコロナ下における新たな働き方へ柔軟に対応することで、営業収益は緩やかな回復基調で推移しておりますが、景気後退懸念や将来の不透明感がM&A市場に及ぼす影響は大きく、投資銀行事業の成約件数、金額に大きな影響がでております。また、事業資産等の評価の見直しや処分を行ったことにより、減損損失、貸倒引当金繰入額等の特別損失を合計で302,630千円計上しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は2,859,048千円（前年同期比5.2%減）、営業損失は119,388千円（前年同期は営業損失20,765千円）、経常損失は68,719千円（前年同期は経常利益1,299千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は367,536千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失130,631千円）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間において、新型コロナウイルス感染症が与える影響の長期化に備え、複数の金融機関から借入による資金調達を行い、十分な手元流動性を確保しております。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### プライズ事業

プライズ事業につきましては、主に株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、緊急事態宣言解除後の取引先の営業再開に伴い、出荷の再開、販売の持ち直しの動きがみられましたが、感染拡大の第二波が懸念される等、再び慎重な消費動向が続いたことで、売上高、セグメント利益ともに、前年の水準を下回って推移いたしました。

以上の結果、売上高は1,278,574千円（前年同期比24.5%減）、セグメント利益は53,355千円（前年同期比63.8%減）となりました。

#### 不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、主に日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、2020年4月の民法改正等により、家賃保証事業者の需要が高まり、新規獲得件数及び既存顧客からの継続保証料の増加もあり、売上高は前年同期を上回って順調に推移いたしました。また、新型コロナウイルスの影響による家賃滞納者の増加を懸念していましたが、公的支援制度の整備、拡充が進んだこと等により、当第3四半期連結累計期間においても、顕著な増加はみられませんでした。

以上の結果、売上高は983,473千円（前年同期比3.5%増）、セグメント利益は35,281千円（前年同期はセグメント損失10,163千円）となりました。

#### 投資銀行事業

投資銀行事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザリー業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルスの収束時期が見通せないことに加え、景気後退懸念や将来の不透明感がM&A市場に及ぼす影響は大きく、案件の遅延や中断が発生しており、売上高及びセグメント利益ともに大幅に減少いたしました。

以上の結果、売上高は12,787千円（前年同期比84.8%減）、セグメント損失は79,349千円（前年同期はセグメント利益17,377千円）となりました。

#### コンテンツ事業

コンテンツ事業においては、株式会社モビぶっくが主に電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行い、フォーサイドメディア株式会社が映像制作事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、緊急事態宣言解除後も巣ごもり消費の継続から、電子書籍配信サイト「モビぶっく」における売上高は堅調に推移し、利益を確保しております。映像制作事業においては、緊急事態宣言が解除されたことを受け、ミュージックビデオの撮影を再開し、制作受託件数も緩やかな回復傾向にありますが、制作コストの高止まりが改善されず、厳しい状況が続いております。

以上の結果、売上高は338,288千円（前年同期比156.9%増）、セグメント損失は2,522千円（前年同期はセグメント利益15,775千円）となりました。

#### イベント事業

イベント事業においては各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルスの影響で、イベントの多くが中止や延期となっております。一方で、その他OEM物販が好調に推移したことで、売上高は前年同期を上回りましたが、利益を確保するまでには至りませんでした。

以上の結果、売上高は118,562千円（前年同期比6.2%増）、セグメント損失は4,121千円（前年同期はセグメント損失12,374千円）となりました。

#### マスターライセンス事業

マスターライセンス事業においては、株式会社マーベラスアーク、フォーサイドメディア株式会社が主に音楽関連事業、出版事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、緊急事態宣言解除後もオンラインでのグッズ販売を継続し、無観客ライブの配信や観客動員数を大幅に抑えた中でのライブ活動も順次再開しており、売上高は堅調に推移しております。出版事業においては、緊急事態宣言をうけて、2020年8月号の休刊を余儀なくされましたが、2020年10月号から復刊しております。

以上の結果、売上高は125,876千円（前年同期比405.4%増）、セグメント損失は1,264千円（前年同期はセグメント損失52,334千円）となりました。

#### その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、貸付金の回収に注力いたしました。

以上の結果、売上高は1,485千円（前年同期比93.0%減）、セグメント利益は1,260千円（前年同期比93.5%減）となりました。

(2) 財政状態

総資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて66,053千円減少し3,621,774千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の増加354,504千円、受取手形及び売掛金の減少177,200千円、のれんの減少170,235千円及び投資有価証券の減少188,600千円等によるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて284,725千円増加し2,546,985千円となりました。主な要因といたしましては、長期借入金（1年以内返済予定含む）の増加246,570千円等によるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて350,779千円減少し1,074,789千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純損失367,536千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	62,380,000
計	62,380,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	32,557,704	32,557,704	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	32,557,704	32,557,704		

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	32,557,704	-	1,432,534	-	1,328,740

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 15,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,957,300	319,573	-
単元未満株式	普通株式 585,004	-	-
発行済株式総数	32,557,704	-	-
総株主の議決権	-	319,573	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,690株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数16個が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フォーサイド	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号	15,400	-	15,400	0.05
計	-	15,400	-	15,400	0.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人八雲による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	466,799	821,303
受取手形及び売掛金	591,570	414,369
商品	168,037	301,083
短期貸付金	62,743	49,832
収納代行未収金	936,738	1,048,391
代位弁済立替金	497,441	510,665
その他	123,154	125,384
貸倒引当金	393,928	402,807
流動資産合計	2,452,555	2,868,223
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	184,512	124,296
土地	164,486	153,155
その他(純額)	15,986	13,170
有形固定資産合計	364,985	290,622
無形固定資産		
ソフトウェア	61,178	45,760
のれん	173,013	2,777
その他	18	18
無形固定資産合計	234,209	48,556
投資その他の資産		
投資有価証券	208,900	20,299
長期貸付金	334,816	375,872
敷金	51,221	44,512
長期未収入金	0	30,500
その他	45,443	8,785
貸倒引当金	4,302	65,597
投資その他の資産合計	636,078	414,372
固定資産合計	1,235,273	753,551
資産合計	3,687,828	3,621,774
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	174,776	166,275
未払金	936,720	1,021,717
未払法人税等	27,232	22,757
前受収益	415,213	442,169
短期借入金	120,000	35,000
1年内返済予定の長期借入金	39,487	46,146
債務保証損失引当金	110,970	117,200
賞与引当金	-	9,000
その他	253,237	260,782
流動負債合計	2,077,638	2,121,049
固定負債		
長期借入金	178,002	417,913
利息返還損失引当金	6,318	7,397
その他	300	624
固定負債合計	184,621	425,935
負債合計	2,262,259	2,546,985

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,432,534	1,432,534
資本剰余金	1,973,659	1,973,715
利益剰余金	1,977,531	2,345,068
自己株式	3,380	3,492
株主資本合計	1,425,281	1,057,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,328	735
為替換算調整勘定	140	265
その他の包括利益累計額合計	23,468	1,000
新株予約権	23,755	16,100
純資産合計	1,425,568	1,074,789
負債純資産合計	3,687,828	3,621,774

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
営業収益		
売上高	2,065,928	1,875,018
その他の営業収益	951,197	984,030
営業収益合計	3,017,125	2,859,048
営業原価		
売上原価	1,418,424	1,353,358
その他の原価	251,950	265,779
営業原価合計	1,670,374	1,619,137
売上総利益	1,346,751	1,239,911
販売費及び一般管理費	1,367,517	1,359,299
営業損失( )	20,765	119,388
営業外収益		
受取利息	5,457	6,560
保険解約返戻金	8,210	36,501
貸倒引当金戻入額	6,954	1,192
その他	5,728	10,726
営業外収益合計	26,351	54,980
営業外費用		
支払利息	2,135	1,742
貸倒引当金繰入額	719	-
その他	1,430	2,568
営業外費用合計	4,285	4,311
経常利益又は経常損失( )	1,299	68,719
特別利益		
投資有価証券売却益	-	3,380
新株予約権戻入益	-	7,655
関係会社株式売却益	7,999	-
その他	61	-
特別利益合計	8,061	11,035
特別損失		
減損損失	-	208,961
貸倒引当金繰入額	-	40,000
投資有価証券評価損	-	26,880
投資有価証券売却損	-	22,914
固定資産売却損	-	3,873
特別損失合計	-	302,630
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	9,361	360,314
法人税、住民税及び事業税	43,038	7,222
法人税等調整額	245,825	-
法人税等合計	288,863	7,222
四半期純損失( )	279,501	367,536
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	148,870	-
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	130,631	367,536

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失( )	279,501	367,536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,448	24,063
為替換算調整勘定	308	405
その他の包括利益合計	2,139	24,468
四半期包括利益	277,362	343,067
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	128,491	343,067
非支配株主に係る四半期包括利益	148,870	-

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等に関して先行きを予測することは困難であります。当社グループでは、現時点で入手可能な外部情報等に基づき、当該感染症の影響は今後一定期間をかけて徐々に回復するものと仮定して、固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

保証債務残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
債務保証額(注)	5,345,852千円	5,620,567千円
債務保証損失引当金	110,970	117,200
差引額	5,234,882	5,503,367

(注) 賃借人の支払家賃等に対し債務保証を行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	42,094千円	27,232千円
のれんの償却額	53,441千円	19,154千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

当社は、2019年3月1日において日本賃貸住宅保証機構株式会社の株式を追加取得し、同社を完全子会社としたことに伴い、当社が追加取得した株式の取得原価と、追加取得に伴う非支配株主持分の減少額との差額である553,595千円を資本剰余金より減額しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,806,039千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ
売上高						
外部顧客への売上高	1,693,522	949,879	84,300	131,685	111,645	24,908
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,693,522	949,879	84,300	131,685	111,645	24,908
セグメント利益又はセ グメント損失( )	147,192	10,163	17,377	15,775	12,374	52,334

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	21,184	3,017,125	-	3,017,125
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	21,184	3,017,125	-	3,017,125
セグメント利益又はセ グメント損失( )	19,317	124,790	145,556	20,765

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 145,556千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自2020年1月1日至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ
売上高						
外部顧客への売上高	1,278,574	983,473	12,787	338,288	118,562	125,876
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,278,574	983,473	12,787	338,288	118,562	125,876
セグメント利益又はセ グメント損失( )	53,355	35,281	79,349	2,522	4,121	1,264

(単位：千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	1,485	2,859,048	-	2,859,048
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	1,485	2,859,048	-	2,859,048
セグメント利益又はセ グメント損失( )	1,260	2,639	122,027	119,388

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 122,027千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から「フィンテック関連」については、量的な重要性が低下したため「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間のセグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純損失( )	4円16銭	11円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	130,631	367,536
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失( )(千円)	130,631	367,536
普通株式の期中平均株式数(株)	31,382,941	32,542,201

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(連結子会社間の合併)

当社は、2020年11月13日開催の取締役会において、当社連結子会社である日本賃貸住宅保証機構株式会社を存続会社、同じく当社連結子会社であるフォーサイドリアルエステート株式会社を消滅会社とする吸収合併(以下「本合併」といいます。)を行うことを決議し、2020年12月31日付で吸収合併することを予定しております。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合企業の名称 : 日本賃貸住宅保証機構株式会社(当社の100%子会社)

事業の内容 : 賃貸家賃保証業務、不動産の仲介及び売買

被結合企業の名称 : フォーサイドリアルエステート株式会社(当社の100%子会社)

事業の内容 : 不動産の取得及び売買、収益用不動産の取得

(2) 企業結合日

2020年12月31日(予定)

(3) 企業結合の法的形式

日本賃貸住宅保証機構株式会社を存続会社、フォーサイドリアルエステート株式会社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

日本賃貸住宅保証機構株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

本合併は、当社グループの統合再編により、事業ポートフォリオの再構築と経営資源の集中化を行っており、その一環として、更なる業務の効率化によるコスト削減及び収益の向上を図ることを目的としております。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理を実施する予定であります。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

株式会社フォーサイド

取締役会 御中

監査法人 八雲

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 橋川 浩之 印

指 定 社 員  
業務執行社員 公認会計士 安藤 竜彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーサイドの2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーサイド及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。